

「富士通フォーラム 2018」において災害統計グローバルセンター(GCDS)の取り組みが紹介されました(2018/5/18)

テーマ：災害統計の整備、国際連携
場所：東京国際フォーラム（東京都千代田区）

2018年5月18日（金）、当研究所と共同研究を実施している富士通株式会社が主催する「富士通フォーラム2018」において、「富士通とSDGs ～世界が達成すべき目標に向かって～」と題したセミナーが開催され、その中で災害統計グローバルセンター（GCDS）の取り組みも紹介されました。当該セミナーには、当研究所から情報管理・社会連携部門 社会連携オフィスの小野裕一教授、佐々木大輔助教、田中秀実研究員、森山佳奈研究員が参加しました。

当研究所、富士通株式会社、国連開発計画（UNDP）の三者は、2017年3月から災害統計グローバルセンター（GCDS）の活動の一環として、災害統計グローバルデータベース（GDB）の構築、運営に係る共同研究プロジェクトを実施しています。当該セミナーでは、パネリストとして登壇した富士通株式会社の佐々木執行役員副会長から、本共同研究プロジェクトのこれまでの取り組みや今後の活動予定等について紹介がありました。

また、同じくパネリストとして登壇した元ニュージーランド首相で前国連開発計画（UNDP）総裁のヘレン・クラーク氏は、自身が災害統計グローバルセンター（GCDS）の設置発表（2015年3月）に立ち会った経緯も交えながら、センターの貢献が期待される災害リスクの理解や災害リスク情報の提供等について、その意義を強調していました。また、クラーク氏は、SDGsを達成するには恒久平和の構築が重要であり、恒久平和の構築無しにはSDGsは達成されないことを強調していました。これについては、防災も同様であるものと考えられます。

セミナーに先立ち、GCDSのセンター長である小野教授は、クラーク氏と会談し、センターの進捗状況と展望について意見交換を行いました。また、2019年11月に開催予定の第2回世界防災フォーラムも話題に上り、クラーク氏の参加を期待するとし再開を約しました。



セミナーの様子